

都市部における保育所としての 森のようちえん ～まち保育のススメ

NPO 法人もあなキッズ自然楽校（神奈川県）

<http://moanakids.org/>

取組の目的・背景・沿革等

地域の環境や状況

区内では、子どもの人口増加率が上位にある「港北ニュータウン」内に位置する。園舎から徒歩5分ほどのところに、周囲13キロある自然緑道がある。造園業者が植樹した木々と、里山だった環境が入り混じることで、季節感もあり、過ごしやすい環境として人気のある町である。一方で、幼児教育への関心も高く、様々な幼児教育機関もある。また、ニュータウンの特徴として若い親同士がコミュニケーションをとり協働していくことの難しさから、育児困難者も見えない部分で増加傾向にある。

取組の経緯・背景・理念等

育児困難が増えていることや子どもが外遊びをできる環境が減少していることなど厳しい現実がある中で、日常生活において自然に触れ、自己肯定感を育む自由な遊びの環境を保障することを考え、「未来を創るのは子どもたちだ！」をキーワードに2007年もあなキッズ自然楽校を設立。小学校の放課後の居場所（現 放課後児童クラブ）として小学生を対象とした事業を開始し、その後、幼児期からの自然体験の重要性を感じ、2009年認可外保育施設めーぶるキッズを、2011年もあな保育園を開園した。「子どもを人間としてみる」を中心的概念とし、「Sharing Nature」・「Play a lot」・「Family Growing Together」という3つのコンセプトを柱にして、保育実践を行っている。保育施設として森のようちえんの実践を行っており、そのため室内環境も「木育」を大事にし、国産無垢材を使用した生活空間を実現している。園庭がない保育園であっても「森のようちえん」×「木育」の実践から都市部の保育園としての、保育事例の模範として注目されている。



取組の概要

取組の内容

通常、月曜日から金曜日までの午前中は、全ての子どもたちが自然緑道に出掛け、「森のようちえん」としての活動を行う。0～2歳児も1年を通して毎日外に出掛け、自然の移り変わりを五感で感じている。保育園ということもあり、0～2歳児の乳児保育の事例として関心を抱かれる方も多い。通常の保育園の2歳児の活動領域の広さと比較すると、圧倒的な違いがある。

幼児（3歳児以降）は、週2回は終日外で過ごしており、外で食事をするこの喜びと遊びの連続性を大事にしている。その他都会の利点から、月に最低2回は公共交通機関を利用して遠出し、身近な自然より少しダイナミックな自然



環境の中で遊ぶことがある。

🌿 施設や場の特徴、プログラムの特徴

保育園機能としては、日中の外活動以外の重要性を感じており、「木育」として、国産材を使用した室内空間や机、椅子、おもちゃ(木の積み木やブロック)などの環境設定をしている。また、この木質化された園舎を地域の方々との交流の場として開放しており、いわゆる地域のハブとしての機能を持たせている。

本来保育園機能としての課題である保護者間との交流に関しても、普段の子どもたちの様子を知ってもらえるよう、自然緑道を利用したイベントを開催し、保護者間の共同性を高める活動を行っている。



🌿 実施体制について

若手の育成に関しては、保育従事時間の内外を利用して、多くのディスカッションに時間を費やしている。研修等に関しては、各保育者の研鑽項目に違いがあるため自ら希望を出してもらっている。

🌿 安全性への配慮

まずフィールドを熟知することの重要性を感じ、フィールドマップなどの作成などを通じて、危険箇所などの確認をしている。また、フィールドにおけるリスクに関してもミーティングの中などで、随時アップデートしている。

🌿 地域機関・団体との連携

自然緑道は都市公園として管理されているため、区の土木事務所及び市内の公園管理事務所と連携し、情報共有を行っている。また、公園内で活動するプレイパークとも密に連携しており、通常できない火や水を使った遊びを行っている。

取組による効果

🌿 子供・保護者への影響

こどもたちが自然の中で遊ぶことで、子ども達が何もない世界から創造力を働かせて、木の枝や葉っぱなどを使い素晴らしい作品を自由に創りだす創造力が育まれ、他者を気づかうことや思いやる心が育ちました。さらにこのことが、保育者からの指導のもとではなく、自ら創造し、自ら他者を思いやるということ、すなわち主体性が育っているということがいえる。さらに保護者が子ども達の成長する姿から、本質的な子どもの訴えに気付くことがある。

🌿 地域社会への影響

NPO 法人として、環境保全に関する啓発活動に寄与しており、国産材推進、地元印刷会社との連携により環境に配慮した印刷物の作成、地産地消の取組を行っている。また、横浜市とも連携し、より良い地域環境づくりを目指している。

取組を通じて全体的な所感

自然環境のみならず街全体を資源として、地域における子育て支援や教育に関する協働作業を行うことが、都市部における保育園のミッションであり、園庭にこだわらず、園外に飛び出し、地域と連携しながら、他園にも影響を及ぼす園となることが重要であると考えます。